

反省から得たもの

工藤宏太

この研修に参加しようと思った理由はいくらでも後付けできるが、申し込みをするときはただ「行ってみたい。」ということと、「いけなかったらどうしようか。」という気持ちだけであった。そんな適当な動機でも、両親の承諾を得ていくことができ本当に良かったと思う。

しかし、そんな気持ちでは、準備不足に陥ってしまうのは当然で、ほぼ何も準備しないまま当日を迎えてしまった。そこでオックスフォードについてすぐさま 2 つの問題に直面した。

(1) 英語聞けない！

現地に行って再確認したが、僕はもともとリスニングが苦手であった。にもかかわらず準備をしなかった僕は、初めに寮についての注意事項を 3 人が説明してくれたとき、呪文を唱えられていると思うほど全く聞けなかった。そのため話を広げてより深く相手のことを知るということができなかった。

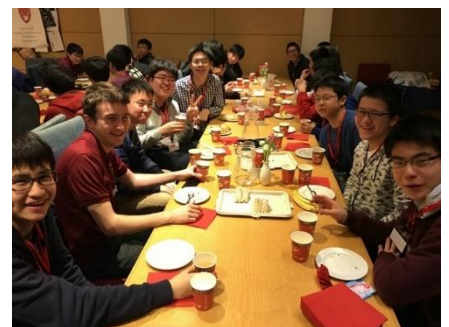
(2) 何聞いていいかわからない！

失敗への恐れを払拭しきれずにいた僕は周りのみんなよりも 3 人に話しかけるのが遅れてしまっていた。しかし、どうしたらよいか分からなくなってしまった僕はほかの人が話しているのを聞いていてしまって、同じ質問はよくないと思った僕はネタ帳もなく焦りに焦る状況になっていた。またネタがなく会話が停止してしまうことが多くあった。

英語が 3 日目あたりから聞けるようになってきた感覚があったが、詰め込まれた日程のなかで、時間を無駄にしないためには準備が大切だと思う。

●現地で学んだこと

現地で学んだことは大きく分けて二つある。一つは「やってみる」もう一つは「よく準備すること」これは、研修に行く前から何度も言われてきたことであった。しかし、百聞は一見に如かず、実感しているときには言葉はものすごく刺さってくるもので、その意味についてもものすごく深く考えさせられた。この部分に関しては、この研修への参加を強く勧めたい。



(1) 目的を持ち「やってみること」の重要性

僕は初対面の人に話しかけるのは、多くの人と同様に得意でない。しかし、それをするところが醍醐味のようなこの研修でやらないわけにはいかない。話しかけてみると全員が丁寧に話してくれて、近寄って行っただけでここに座ってと言ってくれる人もいた。やってみると何とかなるものだと思った。ここで、もしもっと具体的に何のために何を聞きたいかを考えていれば、もっと充実したものになったかも、とってしまう自分がいるのが悔しい。だから講演の内容も踏まえて、自分の目標が何で、そのために何をすればよいのかを具体的に考え、それをやってみることが大切だと思った。



(2) 準備の重要性

僕はこの研修のためにあまり準備をしなかった。これによって、自分の幅を狭めてしまったと思っている。岡本さんの講演の中で「意思を持った偶然は必然になる。」とあったのだが、これはどんな状況にも対応できるよう準備するということでもあると思う。

ネガティブなことばかりを書いてしまったが、この二つは本当に実感できてよかったと思う。

●感想

研修に参加して、ものすごく刺激的な8日間はあっという間に過ぎ去ってしまったが、その中で僕個人としては常識を壊されたというよりも新しい考え方を突き付けられたといえればいいのか、ものすごくたくさんの方に心を動かされた。この研修で得たことをこの先どれだけ生かせるかがこの研修の本当の意義であると思う。だから、新しく得たものをどんどん使っていきたい。また、行こうか考えてる人にはぜひ参加してほしい。

●最後に

ここまで読んでくださった方ありがとうございます。また、この研修に関わってくくださった先生方、ISAの方、加藤先生、松井さん、そしてお父さんお母さん本当にありがとうございました。

